

平成27年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 27 年 8 月 21 日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな)	すずき ともこ				
			鈴木 智子				
	所属・職	総合研究大学院大学物理科学研究科天文科学専攻・大学院生(D2)					
	電話	0422-34-3529	E-mail	suzuki.tomoko@nao.ac.jp			
研究集会名	第45回天文・天体物理若手夏の学校						
開催期間	2015 年 7 月 27 日 ～ 2015 年 7 月 30 日						
開催場所	〒389-0821 長野県千曲市上山田温泉2-9-6 ホテル圓山荘 TEL: 026-275-1119						
参加人数	360 名						
研究集会の概要	天文・天体物理若手夏の学校(以下「夏の学校」と省略)は、天文学及び天体物理学を研究する若手研究者を対象として毎年夏に開催されている定例の研究集会で、今年度で45回目の開催となりました。夏の学校は、若手研究者に発表の機会を与えること、若手研究者の知識を深めること、そして若手研究者同士の交流の場を与えることを大きな目的としています。3泊4日の合宿形式をとっており、今年度は7月27日から30日にかけて長野県のホテル圓山荘を会場として行われました。 夏の学校では、分科会が「重力・宇宙論」「コンパクトオブジェクト」「宇宙素粒子」「太陽・恒星」「銀河・銀河団」「星間現象」「星形成・惑星系」「観測機器」の8つに分けられ、口頭講演とポスター講演が行われます。研究発表の質の向上のため、口頭講演に関しては各分科会の座長団によって講演概要を基にした選別が行われました。また、昨年度に引き続き今年度もオーラルアワードを導入しました。各分科会から参加者の投票によりオーラルアワードを選出し、受賞者には最終日に再度講演をしてもらいました。この受賞講演には、聞いている人に伝わる発表やスライドというものがどういうものであるのかを、実際に聞くことで参加者に学んでもらおうという意図があります。さらに、最前線で研究を行っている研究者の方々を招待し、各分野のレビューや最新の研究結果の紹介等をして頂きました。また口頭講演だけではなく、ポスター講演者も十分な議論ができるようにポスターを常時掲示できる専用の会場を設けました。ポスター講演用にまとまった時間を設けることで、ポスター会場でも非常に活発な議論が行われていました。ポスター講演については全分科会共通でポスターアワードの選出を行い、上位3名の方には最終日に講演を行ってもらいました。 夏の学校では、各分科会に加えて参加者が一同に会する全体企画というセッションを設けています。今年度は「海外での研究生活」というタイトルで行いました。世界の様々な国で現在研究生活を送っている、あるいは送った経験のある講師の方3名をお招きし、それぞれの海外での研究生活、日常生活の様子や海外で研究を行うことのメリット・デメリットに関してざっくばらんに話して頂きました。参加者から多くの質問が飛び出し、海外で研究をすることに興味を持っている大学院生が多いということが窺い知れました。						

研究集会の成果	今年度の夏の学校の参加者は大学院生343名、招待講師17名の計360名となり、前年度の345名から若干の増加となりました。座長団による査読の結果、口頭講演は139件、ポスター講演(ポスターと3分間の口頭講演+ポスターのみの講演)は162件でした。会期中はどの分科会の会場でも、参加者が積極的に手を挙げて質問をし、またセッション終了後に改めて議論する姿が多く見受けられました。2日目夜に行われた懇親会や食事の場でも、違う大学、違う分科会の参加者同士が交流を深めている様子や、また招待講師の方々と研究について、もしくは将来のことについて議論をしている様子が見受けられました。また、最終日のオーラルアワード・ポスターアワードの受賞講演についても多くの参加者が講演を聞きにきていました。アワードの受賞者講演について参加者にアンケートを行った結果、回答者の80%がオーラル・ポスター共に受賞者講演をやるべきという結果となり、アワードに関する参加者の関心の高さがうかがえました。以上の通り、夏の学校が目的としている、若手研究者に発表の機会を与え、若手研究者同士の交流を深める場を提供するという点に関して、期待通りの成果が得られたと考えています。 また、昨年度の夏の学校で問題になったこととして、「宇宙素粒子分科会の参加者数が非常に少ない」ということと「ポスター会場の面積が狭い」ということがありました。今年度の運営事務局ではこれらの問題の改善に取り組みました。 宇宙素粒子分野の参加者減少については、CRC(宇宙線研究者会議)と問題の共有を行い、CRCや高宇連(高エネルギー宇宙物理連絡会)などの宇宙物理関係団体のメーリングリストを活用する等して、宇宙素粒子分野の大学院生に向けて積極的に夏の学校のアナウンスを行いました。その結果、今年度の宇宙素粒子分科会の講演数は昨年度から大きく増加し、分科会では活発な議論が行われていました。 ポスター会場に関しては、今年度はポスター会場を二つに分け十分に広いスペースを確保しました。その結果、各ポスター会場で参加者が窮屈な思いをせずにじっくりと議論できていました。 一方、今年度の課題としては座長となっているM2の学生が、就職活動に伴って座長団を辞退するということが多数見られたことが挙げられます。分科会の進行に支障がでる場合もあるため、今後の夏の学校では博士課程の学生の参加者を増やす工夫を行い、博士課程の学生が今以上により分科会の運営に携わっていかねば、その可能性を探っていく必要があると考えています。
その他参考となる事項 (希望事項も含む)	夏の学校では例年、財源の不足している研究室・研究機関に所属する参加者に対し、旅費補助を行っています。下記の経費使用実績の通り、貴研究機関からの補助金は参加者28名の旅費に充てられました。参加者へのアンケートの結果、旅費補助について必要であると回答した参加者は76%に上りました。また、旅費補助を受けられない場合に夏の学校への参加が困難になると回答した参加者は26%となり、一定数そういった学生がいることも分かりました。上記の通り、夏の学校のような滞在型の研究会は若手研究者同士の交流を促し、また今後の各々の研究の発展に繋がっていくことが期待されます。そのため、所属する研究室・研究機関の大小を問わず全国の大学院生の参加機会を確保することは非常に重要なことであり、旅費補助の必要性は無視できないものとなっています。夏の学校事務局側でも、全体の旅費を低く抑えるために、各地からの交通の便が良く、また参加者の多い関東圏から近い、長野県のホテル圓山荘を会場として選定しました。 以上のように、若手研究者にとって有意義な研究会となっている夏の学校を今後も安定して開催していくためには旅費補助は必要不可欠です。そして、旅費補助は貴研究機関の補助金に依るところが大きく、今後も継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。 最後になりましたが、我々夏の学校の運営事務局および旅費補助を受けました参加者を代表致しまして、この場で貴研究機関のご支援に深く感謝致します。